

# 第15回 安佐動物公園・植物公園・こんちゅう館 研究活動発表会のお知らせ

(公財)広島市みどり生きもの協会の安佐動物公園、植物公園、森林公園こんちゅう館は、日ごろの調査研究活動を広く市民の皆様にご覧いただくため、合同で発表会を開催します。

最新の情報を担当者が、実例を交えて発表しますので、ぜひご参加ください。

- 1 日 時 平成31年2月13日(水) 14:00~16:00
- 2 会 場 広島市役所2階講堂(広島市中区国泰寺町一丁目6番34号)  
※駐車場に限りがあります。公共交通機関を利用してお越しください。
- 3 申 込 当日、会場にて受け付け
- 4 発表内容

## (1) 平成30年7月の豪雨災害による被害と休館中のイベント、今後の展開について

発表者：昆虫館 主任技師 百野 直実

7月の豪雨災害では、広島市森林公園内でもアクセス路の橋の流出、園内道路の崩落、土砂崩れ、多量の土砂や倒木の堆積が発生しました。進入路の復旧には相当の時間がかかるため、残念ながら、未だ閉園中で当館も閉館中です。幸い、建物の損傷はなく、水も電気もほぼ使用できたため、館内にいた昆虫、植物には何の被害も出ませんでした。

そこで、夏休み向けに企画していた「世界のカブト・クワガタ」展を皮切りに、植物公園や安佐動物公園をはじめとする様々な施設や団体に御協力いただき、いろいろな場所に出向いて昆虫に関するイベントを実施することにしました。今回は主に、被災後、当館が行ってきた館外イベントなどについて報告します。

こうして、いつもと全く違う環境で市民のみなさまの声を間近にしながら昆虫を見ていただくことで、新たに気づいたことがたくさんありました。館内展示やイベントを見直す、よいきっかけにもなりました。

この貴重な経験を活かしたイベント案などについても提案してみたいと思います。



災害で起きた園内通路の土砂崩れ



世界のカブト・クワガタ in 植物公園



虫タッチ in こども文化科学館

## (2) 広島市植物公園大温室リニューアルについて

発表者：植物公園管理課 課長補佐 高井 敦雄

平成30年3月3日にリニューアルオープンした大温室は、観賞通路の変更、空中デッキの新設、植物の新規導入等、温室内部を大規模に刷新し、入園者に好評を博しています。

大温室は昭和50年8月に完成し、翌年の11月3日にオープンしました。休館する平成28年2月までのおよそ40年にわたって多くの入園者を迎え入れてきました。その間経年劣化が進み、老朽化が著しくなりました。雨天時には雨漏りがひどく、休館数年前から入園者が傘をさしての観賞を余儀なくされ、それを軽減すべく温室内各所に雨よけシートを設置せざるを得ない状況となりました。雨よけシートを設置することで日照が減少し、その結果、植栽された熱帯花木や果樹類の開花、結実頻度が著しく減少することとなり、魅力低下の一因となっていました。

このため、平成23年度の国内類似施設のアンケート調査や視察調査を皮切りに、予算化作業、基本設計、実施設計の作成、建築工事、造園工事等を行い、およそ7年かけてリニューアルオープンの運びとなりました。

本発表では、主に休館からリニューアルオープンまでのおよそ2年間の造園工事や植物公園職員の取り組みについて紹介します。



建築工事前の造園工事



建築工事中の植物の様子



建築工事後の造園工事

### (3) 安佐動物公園で50年後もユーラシアカワウソ (*Lutra lutra chinensis*) を展示するために ～ブリーディング・ローンの成果を次代につなぐ～

発表者：安佐動物公園飼育・展示課 屋野丸 勢津子

みなさんは、安佐動物公園にいる中国系ユーラシアカワウソ (*Lutra lutra chinensis*) が、国内でわずか6頭(2園)しか飼育されていないことをご存知でしょうか。

安佐動物公園では、広島市の友好都市である中国・重慶市との国際交流の一環として1991年に雄1頭、雌2頭のカワウソを導入し、飼育をはじめました。そして翌年の初繁殖後、2008年までに13頭が成育しました。日本の動物園で中国系ユーラシアカワウソを増やすため、その内7頭をブリーディング・ローン(繁殖を目的とした動物の貸し借り)で他園に貸し出しました。ところが、当時はまだ輸入が可能だったことや、国内で30頭あまりが飼育されていたことで、貸し先の動物園は積極的な繁殖に取り組んでいませんでした。その結果、2009年以降中国系ユーラシアカワウソの飼育頭数は減少し続け、「次代を担う若い個体」がいなくなってしまうました。このままでは動物園から、中国系ユーラシアカワウソが消えてしまいます。ところが、昨年1月にブリーディング・ローンの成果として、よこはま動物園で生まれた雄の子ども「リュウ」が安佐動物公園に戻ってきました。「リュウ」は、国内の中国系ユーラシアカワウソを次代につなぐ大きな希望です。そこで、これまでの飼育・繁殖の経過を紹介し、これからの展望についてお話しします。



雌のリオ(上)とじゃれあうリュウ



創始個体の雄ユウ